

実践報告

教育課程の編成および各種指導計画の 作成に関する授業実践報告

金丸 智美

(西九州大学短期大学部 幼児保育学科)

(平成 29 年 11 月 2 日受理)

Satomi KANAMARU

(*Department of Early Childhood Education and Care, Nishikyushu University Junior Collage*)

キーワード：カリキュラム・マネジメント、保育・教育課程論、主体的・協働的な学び

【はじめに】

平成 26 年 11 月 20 日の中央教育審議会諮問¹⁾において「カリキュラム・マネジメント」とは各学校における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連の流れであるとされた。また、平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会の答申²⁾では、幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントについて「園長のリーダーシップの下、全ての教職員が参加することが重要である。(中略) 教員一人一人が教育課程をより適切なものに改めていくという基本的な姿勢を持つことも重要である。」とした上で、「幼稚園等では(中略)カリキュラム・マネジメントは極めて重要である。」とされた。

これまででも幼稚園教育においては、幼稚園教育要領解説「第 1 章総則」に、保育所保育においては保育所保育指針「第 4 章保育の計画及び評価」にカリキュラム・マネジメントに該当する内容が示されている。就学前教育においては既にカリキュラム・マネジメントが実践されており、たとえ新任であっても保育者一人ひとりが園の教育方針を深く理解し、各種計画を作成することが求められている。平成 29 年告示の幼稚園教育要領および保育所保育指針では、改めてそのスキルが求められることになった。

そこで、本稿では保育者養成校 A で開講された「保育・教育課程論」の内容を振り返り、保育者養成校学生がカリキュラム・マネジメントに関する能力を身につけることができたのか、授業評価アンケートに書かれた自由記述をもとに検討する。

【授業について】

1. 開講時期

2 年制保育者養成校 A 子ども学科 2 年生を対象に平成 25 年度前期 15 回授業を行った。

2. 授業の目的

次の 2 点を授業の到達目標とした。

- ・長期的な計画(園目標)から短期的な計画(日案)まで、各種計画の意義と関係性を理解する。
- ・保育における評価を理解し、専門職としての幼稚園教諭・保育士に必要な省察力を身につける。

3. 授業の概要

授業計画(表 1)に沿って授業を行った。この授業は学生にとって苦手とする分野の 1 つであると考え、できる限り学生自身が計画の必要性や計画作成スキルの必要性を感じ、意欲的に学習を進めることが出来るよう主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)

を心掛けた。

1 回目は計画の必要性をテーマに学生と教員とのディスカッションを行い、保育においても計画が必要であることを確認した。2 回目から 4 回目の授業では、保育課程および教育課程の定義を学習した。その際、学生自身が教育課程の基本的な構造に気づくことができるよう、A 短期大学の教育課程を用いて、理解を促した。また、カリキュラム作成に必要な関係法令等の学習も併せて行った。

5 回目は保育・教育課程の作成手順や方法を講義した後、グループに分かれ「理想の幼稚園を作ろう」という活動を行った。この活動は園名、立地(地域の実態)、規模(園児数、園舎や園庭の広さ)、園の特色、教育目標、目指す子ども像、年間行事などを具体的に設定し、架空の幼稚園をつくるという活動である。ここで設定した架空の幼稚園情報をもとに 6 回目以降の授業が展開されることとなる。

6 回目から 11 回目までは「理想の幼稚園」における教育課程、年間指導計画(期の計画を含む)、月案、週日案、日案の作成をグループ毎に順序立てて行った。各種計画の作成手順や要点の説明、グループでの計画作成作業、提出、添削という流れを繰り返し行うことで各種計画作成のスキルを身につけた。

この活動では園の概要や地域の要望に合わせた計画を作成する必要性、各計画の関係性を体験的に学ぶだけでなく、グループメンバー相互の理解を図る、コミュニケーション能力を育むなどの付随効果も期待できる。

授業計画では 10 回目に 3 歳未満児の保育計画を予定していたが、予定よりも各種計画作成に時間がかかった

時数	学習内容
1	オリエンテーション・保育における計画の必要性
2	保育教育課程とは何か
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針
4	季節や行事と保育計画
5	保育・教育課程の編成
6	長期の保育計画①
7	長期の保育計画②
8	短期の保育計画①
9	短期の保育計画②
10	3歳未満児の保育計画
11	日案・指導案
12	保育カンファレンスと省察①
13	保育カンファレンスと省察②
14	指導要録・保育要録
15	自己評価・まとめ

表 1 授業計画表

ため12回目に変更した。

13回目以降は、保育の評価に焦点を当てた内容である。保育カンファレンスおよび省察の必要性を学習しPDCAサイクルを回すことの重要性を確認した。また、チェックシート「保育者として高まるための自己診断」を用いての自己評価を体験した。

【授業評価アンケート結果】

A短期大学が実施した授業評価アンケートの自由記述を見ると、「長期、短期の計画の立て方を具体的に知ることが出来て良かった」「実践的な計画を立てることが出来た」「計画の立て方が全部わかった。就職しても大切だということがわかった」「新任も参加し、みんなで学んで作り上げることがわかった」などの記述が多くあった。この結果より、授業の到達目標の1点目は達成されたことがわかる。一方で、評価や省察に関する記述はなく、授業の到達目標の2点目に関しては今後の課題となった。

【まとめ】

本稿の実践では架空の幼稚園をつくり、各種計画を作成するというカリキュラム・マネジメントの模擬体験を行った。この取り組みにより、ある一定度の効果は得られたと考える。しかし、養成校の段階で全てを体験することは大変困難であり、実践・評価・改善は行うことができなかった。この授業での学習が就職後に生かされ、カリキュラム・マネジメントの本質理解および実践の一助となることを強く願う。

【参考・引用文献】

- 1) 文部科学省中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」(諮問)(2014) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm)
- 2) 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)(2016) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm)